

第 2 章 宮代町の将来像

- I. 将来都市像
- II. まちづくりの目標
- III. 将来都市構造

I. 将来都市像

みどり輝くコンパクトシティ

※上記は現行計画の将来都市像を掲載。

今後、住民アンケート結果や総合計画の将来像等を踏まえて再設定予定

II. まちづくりの目標

※今後、総合計画の基本構想等と整合性を図ります

本町がこれまで積み重ねてきたまちづくりを継承し、さらに向上させていくために、将来都市像の実現に向けたまちづくりの目標を以下のように設定します。

安心して住み続けられるまちづくり

- 子どもから高齢者、障がいのある方まで、誰もが安心して住み続けることができるように、生活や交通の利便性が確保された、質の高い居住地の維持・形成に取り組むとともに、地震や水害などの自然災害にも強い安全なまちづくりを目指します。

賑わいと活力のあるまちづくり

- 町が有する多様な交流機能の活用を図るとともに、鉄道駅周辺や主要幹線道路沿道におけるポテンシャルを活かした新たな土地利用の展開も検討しながら、さらなる賑わいと活力の創出を目指します。

“農”と共生したまちづくり

- 本町の特徴でもある農地・森林・河川などの自然環境は、都市に潤いと魅力を与える重要な資源となることから、引き続き、適正な管理・保全を図るとともに、交流の場としてさらなる活用を図りながら、“農”と市街地が調和し、共生するまちづくりを目指します。

多様な主体との協働で支えるまちづくり

- 本町が推進してきた、市民参加システムを引き続き充実させながら、住民・事業者・行政など、多様な主体とのパートナーシップによる質の高いまちづくりを目指します。

Ⅲ. 将来都市構造

(1) 拠点の役割

- 「拠点」は、商業・業務、交流・レクリエーション、産業など、住民の日常生活や都市活動の中心となるエリアを示すものです。

名 称	役 割
まちなか拠点	【東武動物公園駅前周辺の市街地】 ☑ 本町の賑わいを創出する拠点として、商業・業務・行政・医療・福祉など、多様な都市機能の集積と維持・充実を図ります。
生活拠点	【和戸駅及び姫宮駅周辺の市街地】 ☑ 周辺住民の日常生活の拠点として、商業・サービスなどの暮らしに必要な都市機能の維持・充実を図ります。
産業拠点	【和戸横町土地区画整理事業区域、東武鉄道操車場周辺】 ☑ 圏央道への近接性を活かした産業拠点として、本町の活力創出に資する環境共生型の工業団地の整備を図ります。
ふれあい交流拠点	【宮代町総合運動公園（ぐるる宮代）、東武動物公園及び新しい村、はらっパーク宮代周辺、西原自然の森】 ☑ 町内外から多くの人が集まる交流拠点として、既存機能の適正管理と機能の充実を図ります。

(2) 軸の役割

- 「軸」は、人やモノの円滑な移動を確保するための主要な動線を示すものです。

名 称	役 割
都市軸	【圏央道及び本町と周辺都市を繋ぐ主要な広域幹線道路網】 ☑ 本町と周辺都市を連絡し、町内の円滑な移動を支える交通軸として、適正管理と計画的な整備を図ります。
鉄道軸	【東武鉄道伊勢崎線及び日光線】 ☑ 通勤・通学や広域移動を支える交通軸として、引き続き、事業者との連携・協働による路線の維持・充実を目指します。
河川軸	【大落古利根川、隼人堀川、姫宮落川をはじめとする河川・水路】 ☑ 本町の潤いある環境を形成する環境軸として、安全性の高い親水空間としての適正管理・活用を図ります。

(3) ゾーンの役割

- 「ゾーン」は、同じ特性・役割を有する連続した土地利用を面的に誘導する大まかな範囲を示すものです。

名称	役割
市街地ゾーン	【市街化区域を中心とした既存市街地】 <input checked="" type="checkbox"/> 多くの住民の暮らしの場として、安全・安心・快適な居住環境の形成を図ります。
田園共生ゾーン	【市街化調整区域の田園地域及び既存集落】 <input checked="" type="checkbox"/> 本町の農業生産と農に囲まれた潤いある環境を支える場として、既存集落の維持・活性化と農地をはじめとする自然環境の管理・保全・活用を図ります。

(4) 将来都市構造図

